工房づくし 柳沢

アトリエ桃江子

←布絵に使った後のはぎれで、小さな可愛い人形が出来る

↑布絵「柳沢野」
映画『風の又三郎』のロケ学校跡に、「柳沢野」の看板がある。

アトリエ桃江子では布を使って絵や、ぞうり、人形などを作っています。布はすべて古着を使いリサイクルの作品を作っています。

ふくろうに込める思い

桃江さんは、作品の多くにふくろうと宮沢賢治の物語を取り入れています。宮沢賢治が柳沢をよく訪れていたということもあり、その物語を使っているのだそうです。ふくろうは森の守り神なので、柳沢がいつまでも緑豊かであるよう、世界が柳沢のようになってほしいという桃江さんの願いが込められています。

桃江さんは平成三年に柳沢にきました。柳沢に来たとき緑豊かな柳沢がとても気に入ったそうで夢のアトリエをぜひ柳沢に建てたいと思ったそうです。桃江さんは、柳沢をとても愛しているようでした。

斉藤桃江さん
TEL/FAX019-688-6707

アトリエ桃江子 体験・販売

『ものづくり体験』
二時間千円、材料費五百円で布絵、布ぞうり、和紙ランプシェード、木彫りふくろうづくりなど様々な体験ができます。材料の持ち込みもOK

アトリエ桃江子ではお客さんと直接話をして販売をしています。ぜひ、アトリエ桃江子にご来店下さい。

里工房

里工房では木工家具を作っています。木の材料は、岩手県産の南部赤松を使っています。テーブル、椅子、棚などを、注文されてそれに応じた家具を作っています。

他の工房にはない特徴はありますか？と聞いた所、「まずこの場所で作っていること」と言っていました。また、「自分一人で、お客さんと、図面、作製、納品まで話し合いをしていることかな」とほほ笑みながら言っていました。販売先は、地元グループのイベントや、工房祭りで販売しています。

里舘尚さん
TEL019-688-7809

「どんな作品を求めているか」では「耐久性のある物。長く使ってほしいことと次の世代にどんどん繋いでいってほしい」「デザインが飽きない物を作りたい」と言っていました。

最後に、「この柳沢にいっぱい人達が来て、集いをする場所になって欲しい」とほほ笑みながら言っていました。

【引き出し物】
里舘工房で一番の作品。お値段十八万円。一人で作ったとは思えないほど迫力のある作品でした。

草風舎

草風舎では陶器を造っています。食器やいろいろな花瓶です。ここでは、日常で使うものしか造っていないけれど、生活にアクセントを付けるのが目的で造っています。販売先は、草風舎と小岩井農場のどんぐりころころで販売しています。

ここでの作品は、すべて柳沢での生活を反映させて造っています。美しい岩手山と素晴らしい自然があるという思いがすべてに入っているそうです。

菅野夫婦は、作品を通していかにおしゃれでいい空間を造るのが好きだそうです。

お客さんがここに来て、いい気分を味わってほしいそうです。そこで、「お客さんと焼き物を通してたくさんふれ合い、大切にしたい」と言っていました。それと、来てくれた人達に思い出が残るような事を目指しているそうです。

「なぜこのような素晴らしい作品が出来るのか」と聞いた所、「常に一瞬一瞬を大事にし、今という瞬間を大事にしているから」と言っていました。

最後に、「ここでは毎日がドラマみたいになっていると」言っていました。

一つの物でも見方によれば沢山の事が分かってくる。だから、「ドラマを生み出す器」を求めています。

菅野恵理子さん・・右
菅野文哉さん・・左
TEL019-688-6808

長内工房

長内工房では焼き物、彫刻、舞台美術のセットの一部を作っているそうです。販売は自宅、県立美術館ミュージアムショップ、小岩井農場どんぐりころころ、盛岡月が丘北日本銀行向かいのメロウで販売しています。

扱っているのは百五十円から高い物で五千円。この工房での特徴は「一つの物にこだわらず、どんどん新しい物に取り組んでいるすべての作品にそれを使った人が楽しくなったり、ほっとしたような気持ちになれるように作っている」と言っていました。

仕事をしていてよかったと思う時は、「自分が思っている作品が出来たときと買ってくれたお客さんが喜んだ時」と言っていました。

自慢の作品は「あまりない」と笑いながら言っていました。

これからの目標は、「もっともっといい物をつくりたいから、お客さんともっともっと交流したい」だそうです。

そして、「この柳沢をどんどん活性化して素晴らしい所にしてほしい」と言っていました。

【森のメッセンジャー】
とても小さい人形で、口にメッセージを付けて渡すそうです。森の人をイメージしてつくったそうです。

【鉄釉　とう明かり】
とても、うすいパーツで出来ている。3ミリくらいの厚さで、自然と綺麗に曲がった。中から光が出ていて見ているだけで落ち着く。

長内潤子さん
TEL019-688-5702

陶來

陶來では、作品の九割ほどを食器が占めています。

他に壺や、一輪挿し、置物がありますが、おすすめはご飯茶碗と、つみどんぶりだそうです。

大皿などの絵つけは、奥さんが担当されているそうで小さなプレート状のものに「見ざる、言わざる、聞かざる」などかわいいイラストを描いたものもありました。

陶來という名前の「來」は、人を呼ぶ又、始まりという意味があるそうです。

火の科学

大沢さんは、作品を作るときは、自分の作りたいものを作れるようにしているそうです。

「焼き物なので火加減で出来上がりに差が出ます。そこで、焼き物には、偶然の科学、火の科学というものがある」と言います。

↑ピンクの花が可愛く明るい雰囲気

←陶器のプレートに花のイラストが描かれた物

↓ちょっとちがう陶器ざらざらした面

大沢和義さん
TEL/FAX
019-688-1502

陶來 販売

陶來では生徒を取っていて、直接学びに来る人と、コミュニティーセンターに教えに行ったりもするそうです。

販売は、全国中に発送しています。価格は茶碗が千五百円から二千円くらいで、他には高くて十五万円から十六万円くらいの物があるそうです。ぜひ一度購入してみては。

東北巧芸舎

東北巧芸舎では、漆塗りの食器を主に作っています。他にも漆塗りの写真立て、時計の枠などがあります。

木の香りと漆の輝き

佐藤さんは、漆の食器を訪れると、たくさんの木の香りがしました。とても懐かしくなるような気がしました。

漆の食器を見てみると木目がとても優しい雰囲気を出していました。佐藤さんは、漆の食器などを作るとき《とち》という木をよく使うそうです。加工しやすく漆を塗ったとき木目が綺麗なのだそうです。

佐藤さんは「もっと木の食器を使って欲しい」と言っていました。「木の優しい雰囲気が身近にあると落ち着くし、気持ちも優しくなれる気がするからだ」と言っていました。そして「何よりも安全だからね」とも言っていました

↑器にモミジの形を写し取って模様を就ける

東北巧芸舎 販売

東北巧芸舎で作られる食器は、全国の専門店で販売されています。佐藤さんは、直接依頼を受けて作る事もあり、お客さんからお椀を持ち込まれて同じお椀を作ることもあるそうです。ただし、木を置く時間があるので、完成まで時間がかかるとのことでした。

工房まつりにも参加しているのでそこで作品を購入することもできるそうです。

ぜひ東北巧芸舎の食器を使ってみてはいかがですか。

佐藤勲さん
TEL/FAX
019-688-2968

↑フラッシュありで撮った物、不思議な輝きです

→松竹梅の砂時計

山さんせい盛

山盛工房は木を使った家具を中心に作っています。

特に椅子はお勧め商品です。

山盛工房の西館さんは、お客さんからの注文を受け、どのようにするかをお客さんとのコミュニケーションを大切にしています。

木の物ならなんでも作りたい

西館さんは楊枝から3～4㍍のテーブルまで作るそうです。作品作りは、イメージが湧けば一気に作り上げてしまい、使い勝手や、使ってくれる人のことを考えながら作っているそうです。一つ一つの作品に愛情を込めて作っているんだなと思いました。

↑ただいま作業途中の椅子

西館正和さん
TEL/FAX
019-688-3983

山盛工房 販売・工房まつり参加

山盛工房の作品販売は、工房で行っています。上に書いたようにお客さんとのコミュニケーションを大切にしているからです。

山麓工房まつりでも販売を行っています。大きい作品から小さな作品まであります。

山盛工房では、体験などは特に行ってはいないのですが、西館さんは「でも教えてあげるよ」と、明るく話していました。

ぜひ、山盛工房に足を運んでみてください。きっと素敵な家具に出会えるはずです。

↑完成間近のカウンター

編集後記

私達は、総合の授業で柳沢の自然、歴史、工房、サークルをテーマにし、それぞれグループを作りました。

私達は、どんな情報誌を作りたいかみんなで話し合いました。そこで私たちはこれを見た人が柳沢に来たいと思えるような情報誌を作りたいと考えました。

このテーマを決めるのにも、どのようにしたら柳沢がどんなところか伝わりやすいか考えに考え、何十個もの候補の中からこの四つのテーマが決まりました。

情報誌の作成に当たって未来図書館の皆さんにご協力をいただきました。

初めの頃は、なにもかもが新しい試みでわからないことばかりでした。未来図書館の方々に助けていただきとても助かりました。おかげで、柳沢の魅力をたっぷりと紹介することができました。

情報誌に載せる記事を書くために私達は地域の方々にアポをとってインタビューを一人一人しました。

自分一人で深い質問をし、写真をたくさん撮りました。

この情報誌を見て柳沢に住んでいる人は、もっと地域を活用してください。

そして、地域外に住んでいる人は、これからいっぱい来てください。

発行者
滝沢村立柳沢中学校3年
鈴木一平
松村香里
大山直人
佐々木菜摘
佐々木豊
三上明星
高橋明日花
山本頌悟

（この情報誌は、経済産業省地域自律・民間活用型キャリア教育推進プロジェクトにおいて制作しました。）